



新宿区

暮らしやすさも賑わいも
一番の自治のまち「新宿」

平成27年第1回区議会定例会
新宿区長定例記者会見資料
平成27年2月18日(水)

事業名	学校支援体制の充実	予算(案)の概要	66 ページ
予算額	5,984 千円 (新規) (前年度予算額 0 千円)		
取材先	1. 2. 3①③教育委員会事務局 教育指導課長 横溝 (電話 03-5273-3075) 3② 教育委員会事務局 教育支援課長 遠山 (電話 03-3232-1051)		

推進します! いじめ防止対策

新宿区教育委員会では、いじめは重大な人権侵害であるとの認識に立ち、いじめや不登校、その他問題行動防止のための対策を推進します。

1 新規

アンケート「hyper-QU」の実施

いじめや不登校、その他問題行動を防止するためには、教職員が児童・生徒一人一人の状況を適切に把握する必要があります。

そのための指標として、区立学校の小学校4年生から中学校3年生までの全児童・生徒を対象に、アンケート「hyper-QU (よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート)」を導入します。

【アンケート「hyper-QU」とは】

- ・ 早稲田大学の河村茂雄教授が、不登校の予防やいじめ問題の把握のために開発した心理テスト。
- ・ 学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度による診断を行う。

【アンケート「hyper-QU」から得られる情報】

- ・ 児童・生徒個々の学級生活における満足感や、学校生活での意欲の状態を把握することができる。
- ・ 学級集団の雰囲気や成熟状態を、児童・生徒の満足度や意欲の分布状況によって把握できる。
- ・ 学級や学校生活における満足感や意欲に関しての、児童・生徒の学級内での相対的位置が分かる。

【アンケート「hyper-QU」導入のメリット】

- ・ 不登校になる可能性の高い児童・生徒の早期発見に活用することができる。
- ・ いじめの発生・深刻化の予防や、いじめ被害にあっている児童・生徒の発見に活用することができる。
- ・ 学級崩壊の予防や、よりよい学級集団づくりに活用することができる。
- ・ 教育実践の前後に実施することで、指導効果の評価・検討に活用することができる。

2 関連事業

教育課題モデル校の設置

アンケート「hyper-QU」を活用した、いじめや不登校、その他問題行動の未然防止に向けた取組みを推進するため、区立学校の中から小学校1校、中学校1校をそれぞれ指定し、研究の成果を全区立学校に普及していきます。

【主な研究内容例】

「hyper-QU」の活用を通し、以下の研究を進めていく予定です。

- ・ 組織的な対応の充実
- ・ 教職員の対応力の向上
- ・ 一人一人のよさを伸ばす個に応じた指導

等

3 推進

①学校問題支援室

教育委員会事務局内に設置された「学校問題支援室」を中心に、いじめや不登校などの児童・生徒の問題行動に対する学校の対応を継続的に支援(助言、関係機関との調整等)し、事態の早期解決を図ります。



②インターネットによるいじめへの対応

民間技術者等を活用した授業支援体制を整備し、情報モラル教育を教育課程に位置づけて実施することで、インターネット(SNS等)によるいじめの防止等を児童・生徒に指導します。

③教員研修の実施

アンケート「hyper-QU」を十分に活用し、個に応じた指導につなげていくためには、教員がアンケートの結果を的確に理解し、適切に活用していく必要があります。

そのために、教員を対象とした研修を実施します。

【研修会(予定)】

アンケート「hyper-QU」の開発者である早稲田大学の河村茂雄教授と連携し、研修を実施します。

- ・ 校長研修会
- ・ 生活指導主任会、不登校対策担当者連絡会
- ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー対象研修会
- ・ 夏季集中研修会

等